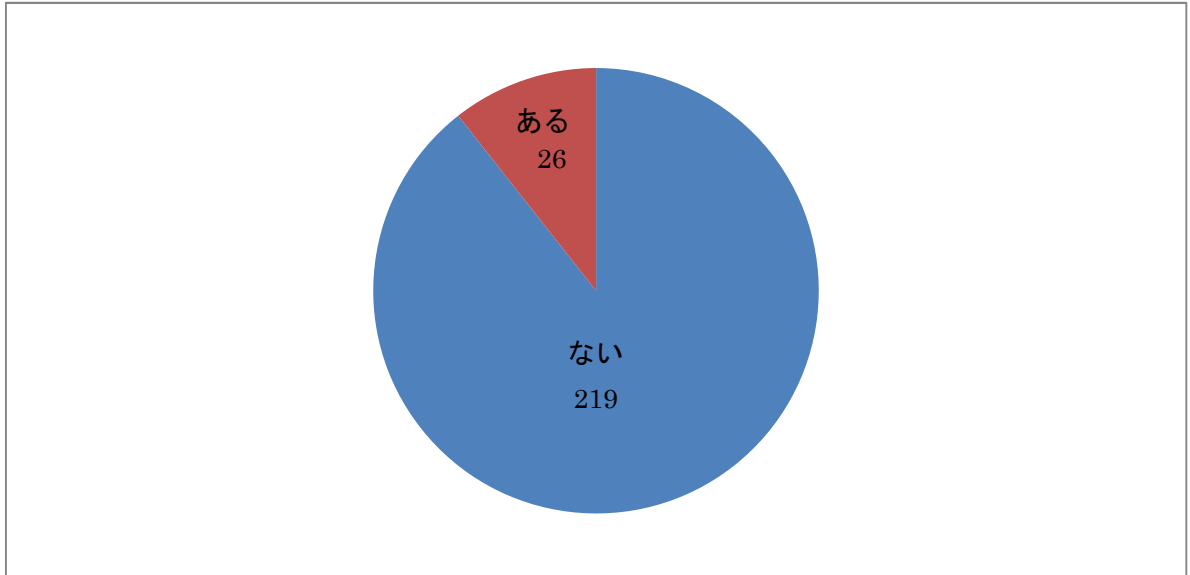


セクシャリティについて

◆設問 1

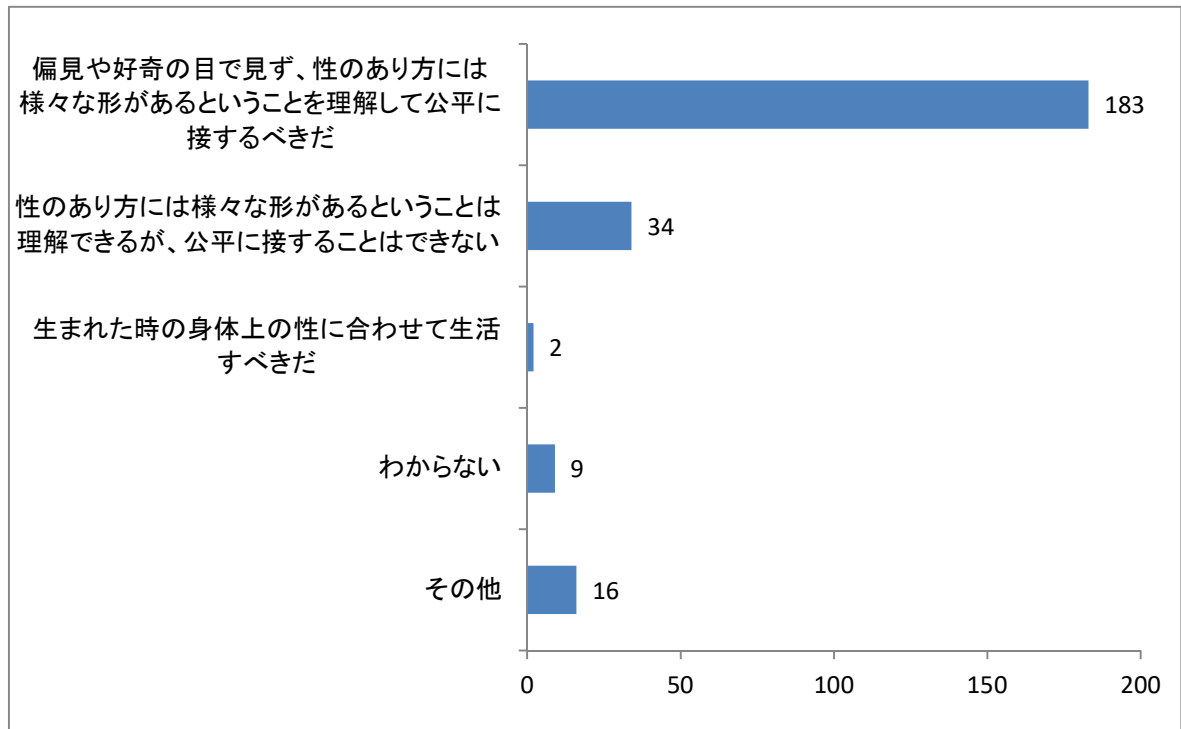
今まで自分の性別に悩んだことはありますか。



今まで自分の性別に悩んだことはあるか聞いたところ、「ある」 26 人、「ない」 219 人という結果になりました。

◆設問 2

性的（セクシュアル）マイノリティの人をどう思いますか。



性的（セクシュアル）マイノリティの人をどう思うか聞いたところ、「偏見や好奇の目で見ず、性のあり方には様々な形があるということを理解して公平に接すべきだ」183人、「性のあり方には様々な形があるということは理解できるが、公平に接することはできない」34人、「生まれた時の身体上の性に合わせて生活すべきだ」2人、「わからない」9人、「その他」16人という結果になりました。

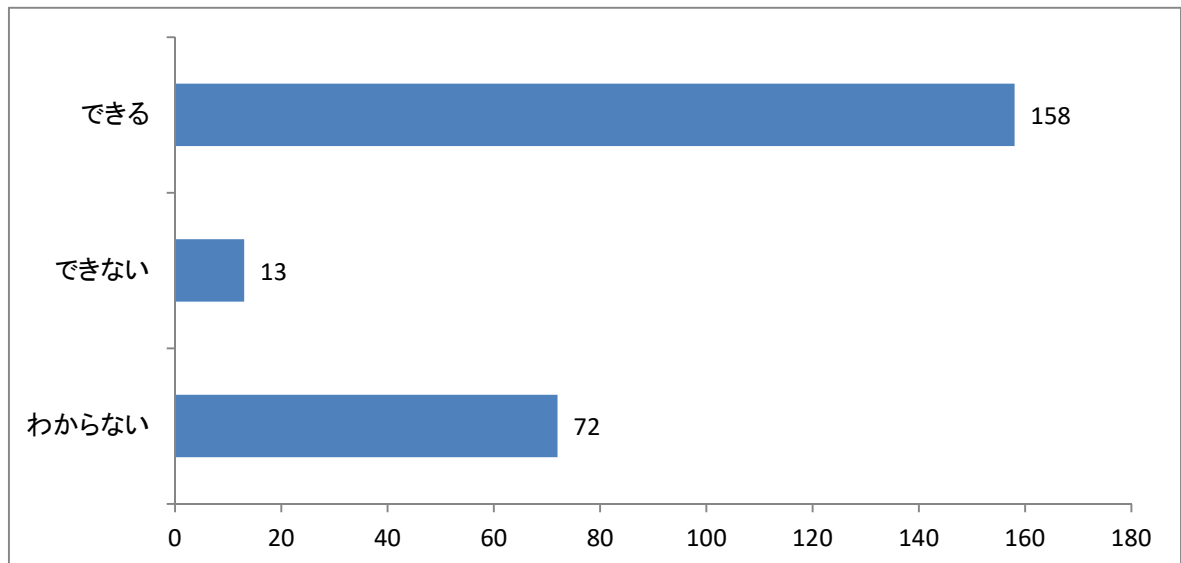
「その他」意見（抜粋）

- ・特に何も気負うべきではなく、違いを理解した上で、当たり前にあるものとして、各個人が「普通に」暮らせばよい
- ・公平に接すべきだと思っているが、現状好奇の目で見えてしまうことがある
- ・個人の問題ではなく社会の問題
- ・性のあり方には様々な形があることは理解する。そのうえで公平に接するとの基準や要望には個人差があるので、全ての方が公平と感じる応対が出来るか分からない
- ・本人の好きにすればよい

◆設問3

あなたは身近な方（家、友人など）や学校や職場内の人に、性的（セクシュアル）マイノリティであることをカミングアウト※された場合、これまでと変わりなく接することができますか。

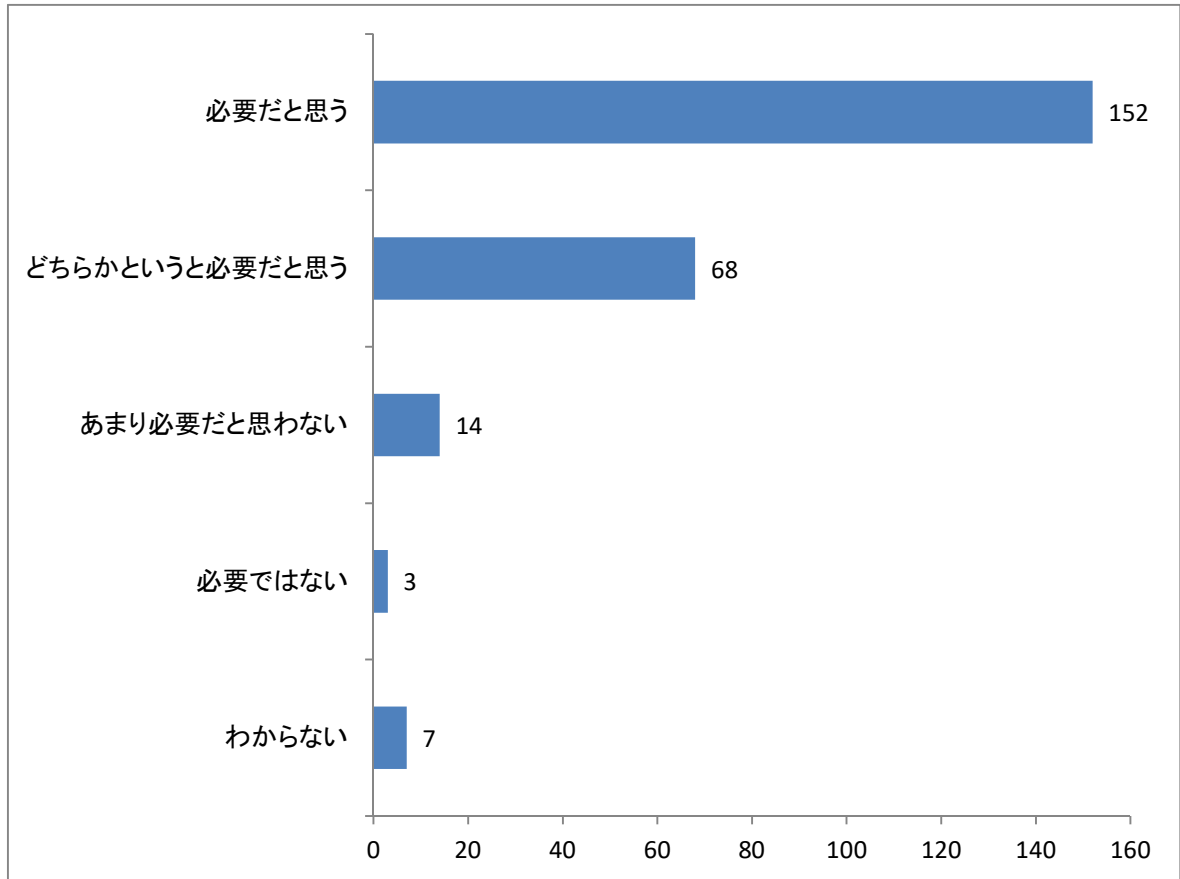
※カミングアウトとは、性的（セクシュアル）マイノリティであることを自分以外の人に打ち明けることを指します。



身近な方（家、友人など）や学校や職場内の人に、性的（セクシュアル）マイノリティであることをカミングアウトされた場合、これまでと変わりなく接することができるか聞いたところ、「できる」158人、「できない」13人、「わからない」72人という結果になりました。

◆設問 4

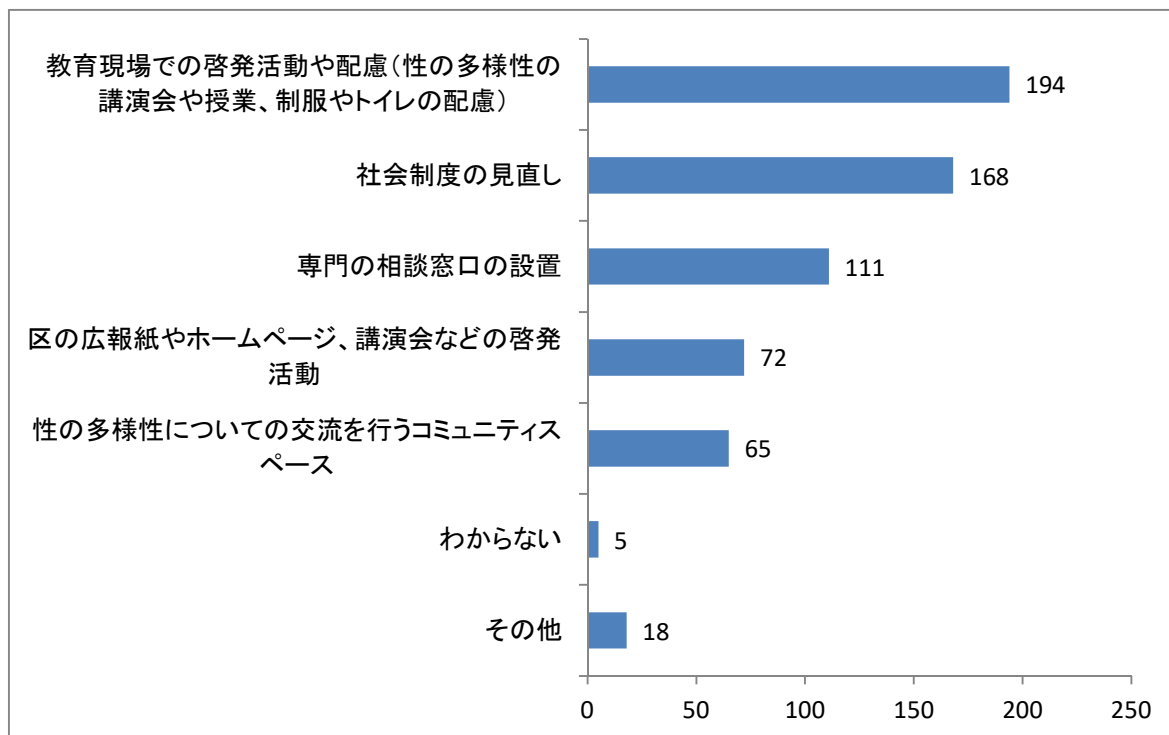
性の多様性を認め合う社会をつくるための取り組みが必要だと思いますか。



性の多様性を認め合う社会をつくるための取り組みが必要だと思うか聞いたところ、「必要だと思う」152人、「どちらかという必要だと思う」68人、「あまり必要だと思わない」14人、「必要ではない」3人、「わからない」7人という結果になりました。

◆設問 5

問 4 で、「必要だと思う」、「やや必要だと思う」とお答えの方におたずねします。どのような取り組みが必要だと思いますか。

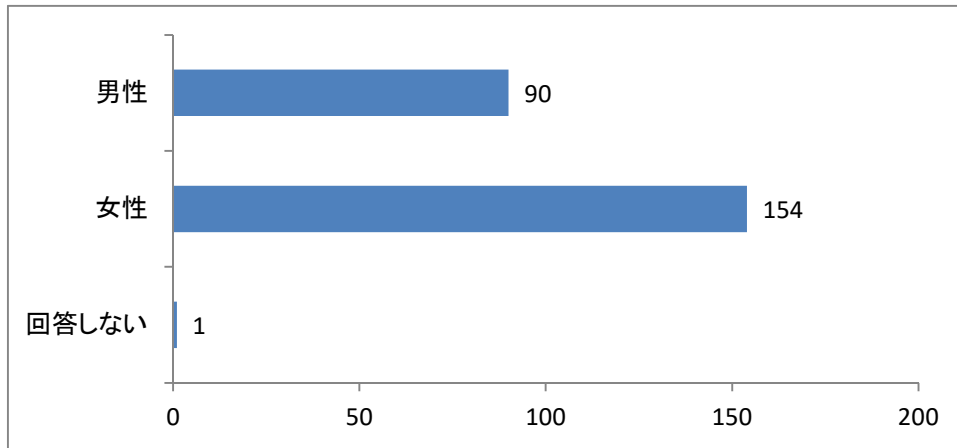


問 4 で、「必要だと思う」、「やや必要だと思う」とお答えの方に、どのような取り組みが必要だと思うか聞いたところ、「教育現場での啓発活動や配慮（性の多様性の講演会や授業、制服やトイレの配慮）」194人、「社会制度の見直し」168人、「専門の相談窓口の設置」111人、「区の広報誌やホームページ、講演会などの啓発活動」72人、「性の多様性についての交流を行うコミュニティスペース」65人、「わからない」5人、「その他」18人という結果になりました。

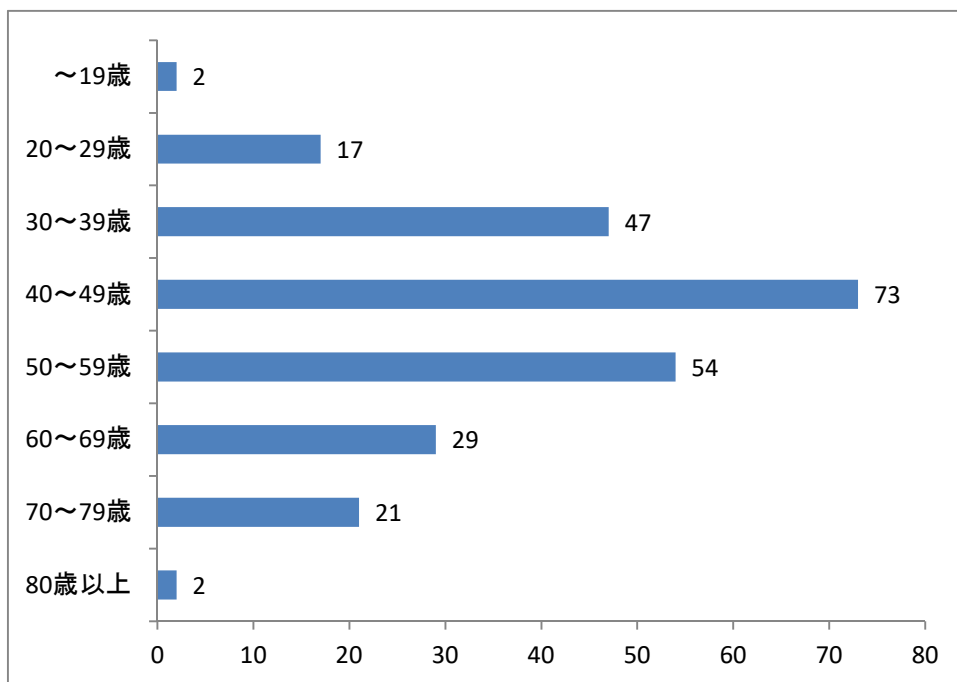
「その他」意見（抜粋）

- ・大人の意識、認識、考えを変えるべき
- ・教職員など、子どもと接する方々が学ぶ機会があると良い
- ・子どものころから多様な性の人に接する機会があると良い
- ・性識別については、当人の認識に委ねる
- ・社会制度の見直しでは「第3の性別」の標準化が急がれるべき
- ・特別な配慮をすると、異端であるとレッテルを貼ってしまうように思う。当たり前と言えるようになって欲しい。難しい問題
- ・マイノリティからの発言の活発化
- ・高年齢層の保守的意見の抑制
- ・偏見を持たない者を行政要職に置く
- ・高齢者への講座や啓発運動

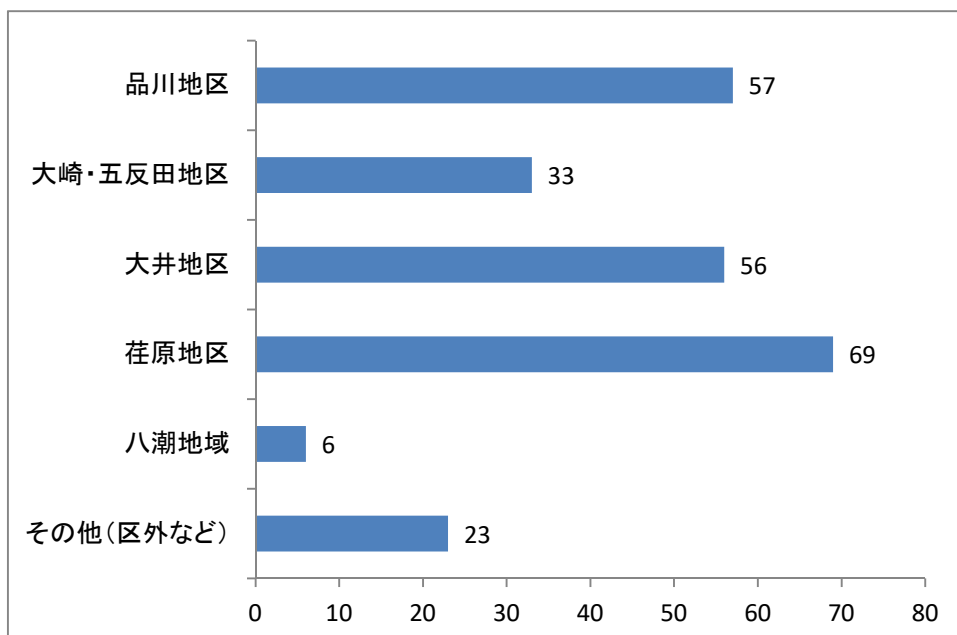
◆F1 回答者の性別



◆F2 回答者の年齢



◆F3 回答者の居住地域



～ご協力ありがとうございました～